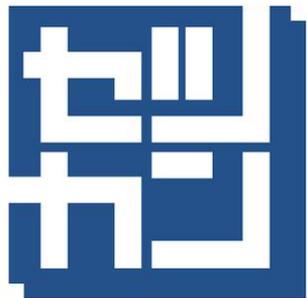
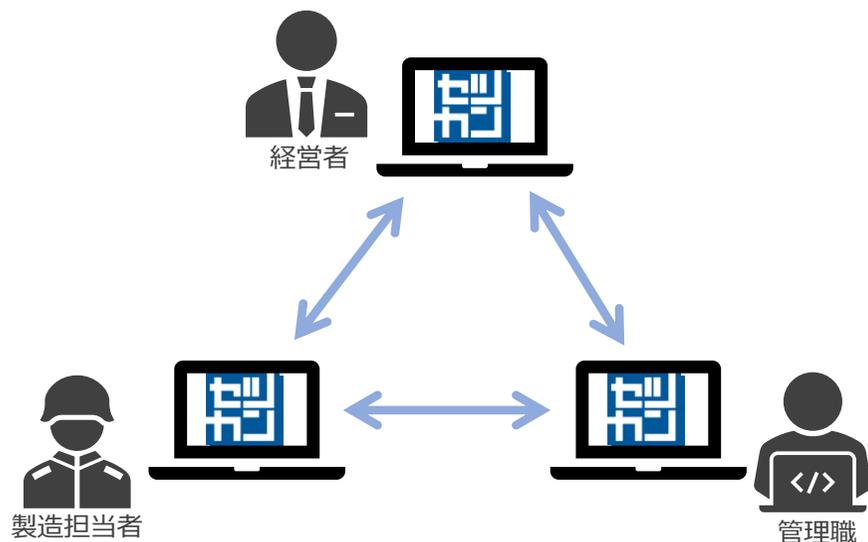


3分でわかる

計画保全運用Webツール「セツカン」



設備管理を
経営の翼にする
設備保全ツール



株式会社保全ラボ
所在地：東京都新宿区住吉町2-18 ウイン四ツ谷410
Tel：050-5604-9815【受付】平日 09:00~17:00
E-mail：contact@hozen-lab.co.jp
ホームページ：https://hozen-lab.co.jp/

すべての工場に設備保全を届けたい

「セツカン」は経営判断に活かせる保全年報を全ての工場でお手軽に作成するためのWebツールです。弊社は設備保全の専門企業として、設備の導入・運用・再使用・廃棄に至る設備のライフサイクルを支援します。

設備管理は本来、工場の資産の有効活用を通じて工場の生産性や価値の向上に寄与するものですが、現実には多くの工場で設備の運用時にタスクベースな業務となり経営から離れ、設備保全の本来の価値を発揮できない場合があります。

本Webツール「セツカン」は、工場での保全や製造での行動履歴からリモートで計画保全を完遂を目指し、工場の保全戦略を支援します。

設備管理がしっかりできている工場はDX化に有利になる

設備管理が工場経営にもたらす

3つの効果



1 生産性の向上

- ◆ 生産機会の増加
- ◆ 不良品の削減
- ◆ 製造トラブルの削減
- ◆ 製品品質の安定

2 経営効率の改善

- ◆ 従業員の残業削減
- ◆ 設備管理指数の見える化

3 社会的意義 (SDGs)

- ◆ 省エネ
- ◆ 産業廃棄物の削減



DX化

- ◆ 生産の自動化や効率化
- ◆ 新製品への対応スピードの上昇
- ◆ 生産ラインの増設、品種変更時の対応スピード上昇

- ◆ 製品や工程の開発や管理
- ◆ リモート勤務の導入

- ◆ 製品のトレーサビリティ精度の向上
- ◆ 環境リスクの調査、管理 (環境DD)

しかし、実際に設備保全を実践できているのは装置産業を中心にした4%のみ

専任の保全員を抱えている工場	製造部員が兼務している工場
4%	96%

※当社調べ

設備保全の業務、こんなことになっていませんか？

設備管理を専任部員で実施していない工場では、設備保全業務を「やっているつもり」になっているケースが少なくありません。

目標値の設定が適切にできていない



経営者

- 経営方針や製造ラインの状態でなく、前年比10%削減など、目標値を機械的に設計している
- 予算は営業や製造などの余り予算で設定されている。

→このようないか減な目標値だと、保全費用が安定せず、長期的な経営戦略が立てられません。

- 保全費用の変動を会計項目のみでみている
- 製造現場の設備停止時間や件数、トラブル要因などの記録が不十分である。



管理職

保全業務に適したデータ収集と利活用がされていない



→現場の記録が適切な時期、粒度で記録されていないと、現場の現状が不明なままで、次の期に適切な目標が立てられません。

現場に則した保全作業ができていない



製造担当者

- 担当者が設備の構造、生産条件に詳しくなく、トラブル対応が場当たり的になっている。
- いつもトラブルが発生する設備は、場当たり対応で、生産を継続している。

→適切な対処と恒久的な対応ができていないと繰り返しのトラブルは削減できません。そのため、ちょっとした仕様や製造工程の変化に対応できる現場力が育ちません。

設備保全を製造部員が兼務している、 そんな工場の設備保全の業務は「セツカン」にお任せ！

導入時

◆ 追加人員ゼロ

- 現状の製造スタッフで実施可能です。
- セツカンを利用すると、専任人員を配置しなくても、設備保全の導入・運用が可能です。理由は、設備保全の専門知識が必要な業務をセツカンが担当するからです。
- そのため、低コストで設備保全の導入が実現可能で、工場は生産活動に専念できるようになります。

◆ 既存の申し送りを活用

- 既存の申し送り方法を活用するなど、現場の負担が限りなく少なくなるよう設備保全の導入方法を検討します。
- すでに保全システムを導入している場合も、保全システムの種類に関わらず、導入済みのシステムを使用します。

◆ 工場訪問による工程確認

- 設備類の資料と製造工程を見せていただくことで現場での導入作業の負荷を低減します。
- ご訪問させていただく理由は、工場ごとに設備保全に求められる水準が異なるため、経済的な保全計画を立てるためには、設備や工程を確認する必要があります。
- 設備メーカーの保守サービスとは違い、工場の生産条件や製造ラインを考慮した保全計画を設計します。

運用時

◆ 毎日の必要工数は最低限

- 製造現場では、設備保全業務のPDCAの内、Dの部分である2つの業務を実施していただけます。
 - ・ 業務1：行動履歴の記録
 - ・ 業務2：保全活動（5 [hr/人・月]程度）
- ※業務2の保全活動の活動案をドキュメント形式で提出いたします。

◆ 定期的に目標値と保全プランをお届け

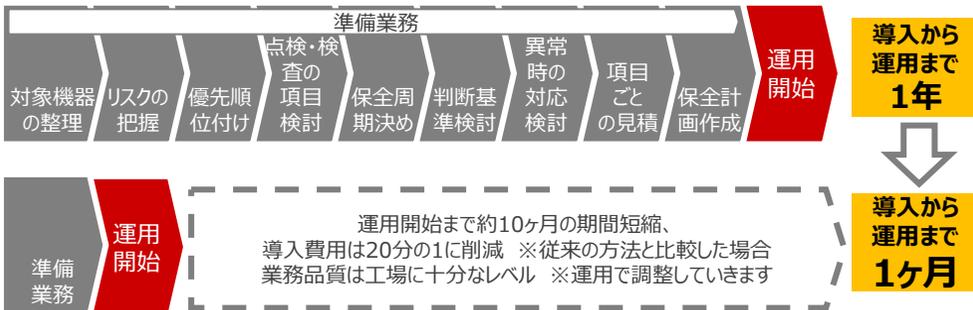
- 月次で、保全活動へのフィードバックを行います。
- 設備保全の管理指数の設定後は、セツカンにて管理指数のモニタリングを行い、月次で、レポートを提出いたします。
- 6ヶ月毎に履歴分析を行い、目標値の設計や保全のアクションプランを提示します。

◆ 必要なノウハウは適宜、提供

- 記録の記入の仕方や設備情報の整理の仕方など、製造現場で必要な設備保全のノウハウは適宜、提供し、現場での実装を支援します。
- 必要に応じて研修やワークショップを実施するため、現場の能力向上を無碍なく実現できます。
- 保全システムとは違い、分析項目の設計や分析の実行をセツカンが担当するため、保全の専門知識は必要ありません。



従来の設備保全の導入比較



従来の設備保全の運用時に必要な業務

設備保全の業務は、製造ライン全体の安定のために、設備を1台単位で管理する必要があります。常に最適状態に保ち、廃棄物や廃液の管理までの設備保全の業務範囲は多岐に渡りますが、タスク一つ一つの難易度はそれほど高度ではありません。重要なのは「何をすべきか」を適切に検討、設計することです。

しかし、工場の規模や生産の安定性によっては、保全パーソン一人分の仕事に十分でないこともあります。そのため、保全パーソンの知見が必要な部分をセツカンに任せて、現場が製造に専念できる環境にすることは、合理的な解決策です。

既存の製造の申し送りに項目を追加するだけなので
無理なく続けられます。

データ共有



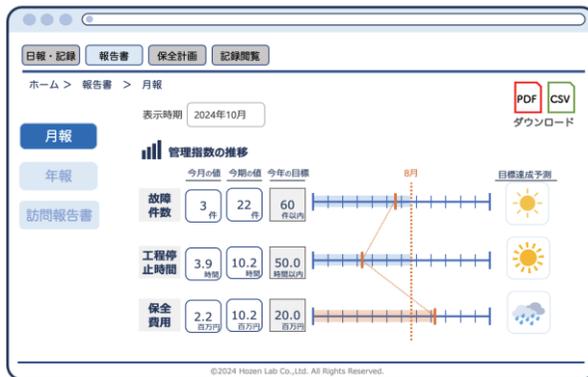
or

記録送信



Web入力

月報のイメージ



分析結果のイメージ



◆ 工場の設備の保全水準を向上させる仕組み

適切なフィードバック

行動履歴の書き方をフィードバックします。業務負荷を軽減する知見があるため、設備保全の導入・運用を続けられます。

教育の支援

重要設備やトラブルが多い設備に対して、個別ワークショップにより現場に必要なノウハウを提供します。
※別途、料金がかかります。

データ解析

行動履歴の分析を行い、保全プランを提案するため、生産の安定性と現場の安全性が向上します。そのため、経営リスクの低減が期待できます。

◆ セツカンを続けるメリット

管理指数の見える化

設備保全の目標値、管理指数が見える化され、よりよい経営判断ができるようになります。経営の収益性改善が期待できます。

IT・DX化の相談

センサーなどのIT導入に際し、適切な機器と設置場所をアドバイスいたします。※相談内容によっては別途料金がかかります。

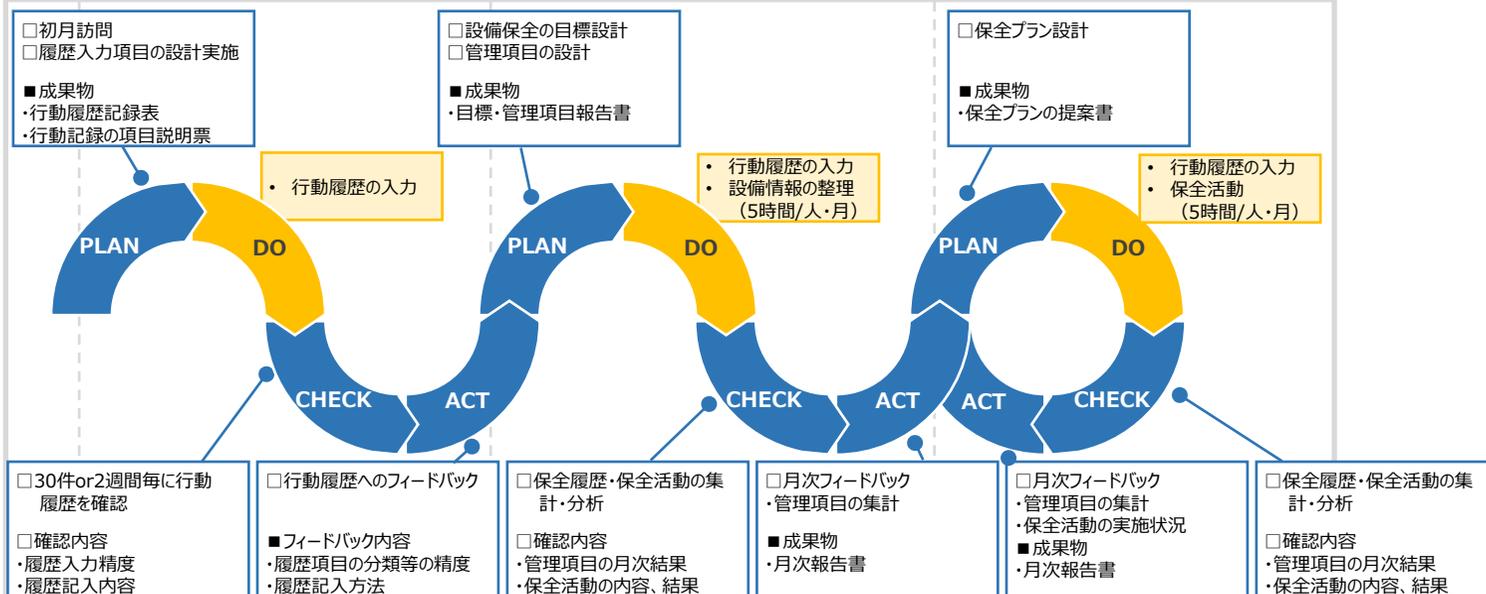
無料工場訪問の実施

2年毎に工場訪問を要求できる権利が発生します。訪問費用は無料です。

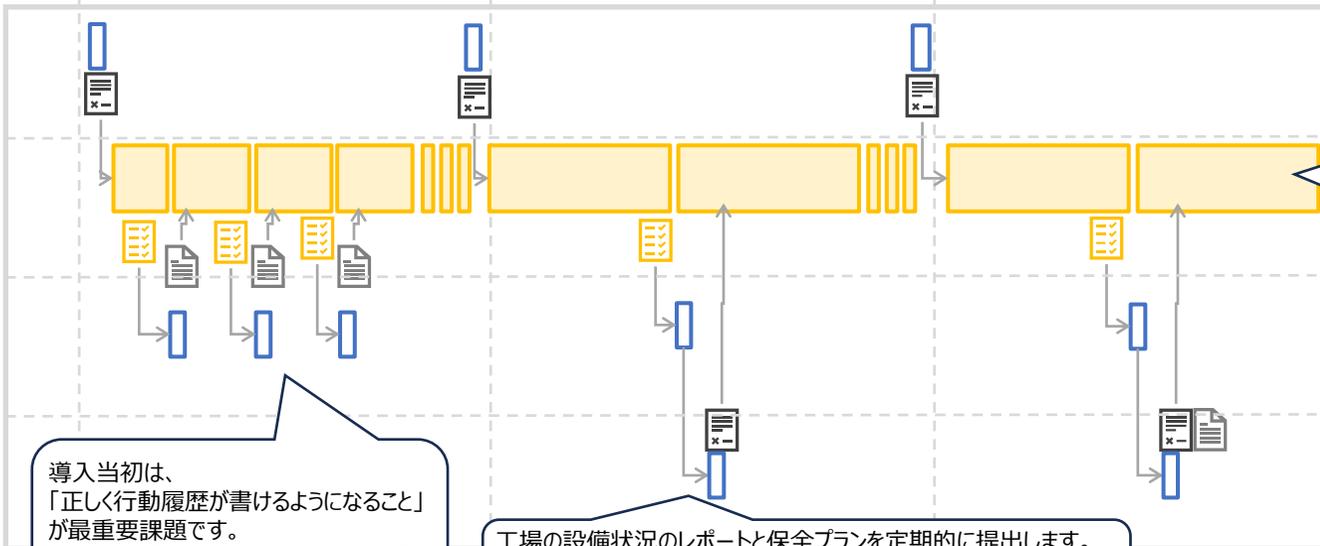
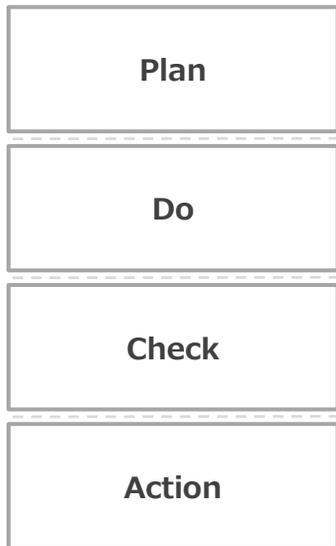
行動履歴の記録をつけるだけで
工場に最適な目標値と保全プランが届きます。

セツカンのサービスフロー

スケジュールイメージ



活動内容のイメージ



現場では、行動履歴を記録する作業を継続的に行います。

導入当初は、「正しく行動履歴が書けるようになること」が最重要課題です。そのため、短い間隔でフィードバックを行い、適切な書き方ができるように支援します。

工場の設備状況のレポートと保全プランを定期的に提出します。保全プランに記載された保全業務量は現場の状況に応じて無理のない範囲を話し合いの上、決定します。



セツカンの活用事例A社

I 現状把握フェーズ

II 情報整理フェーズ

III 運用フェーズ

1ヶ月

2ヶ月

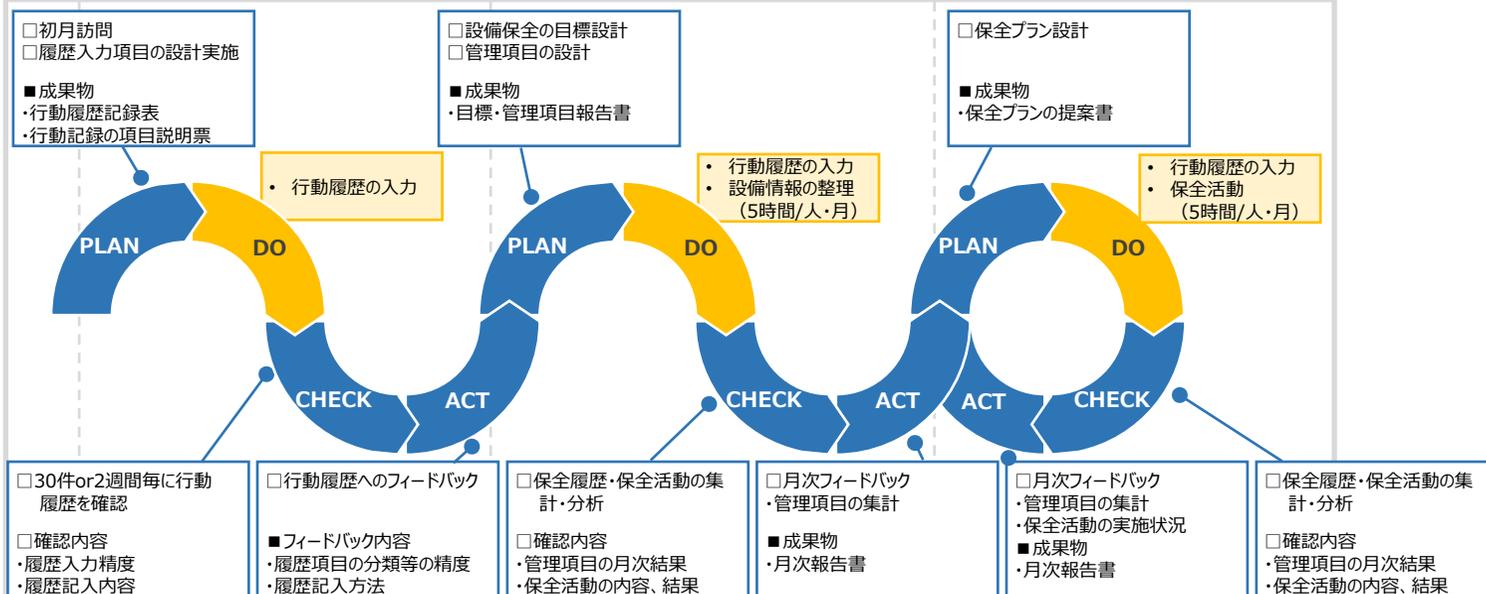
7ヶ月

8ヶ月

13ヶ月

14ヶ月

スケジュールイメージ



活動内容のイメージ

A社の工場の基本情報

従業員数：200人
 保全体制：
 製造部員が設備保全業務を兼任している



ニーズ
 設備保全の導入による業務改善

- 保全業務の見える化
- 設備要因の損失の把握
- 故障や工程停止時間の削減

現場で記録させる「癖付け」に苦労しました。保全ラボに相談したところ、項目の記入例や仕訳例の教育を行っていただきました。3ヶ月目には書き方の標準化が進みました。



管理職

保全ラボから一言

現場の習慣を変えることは大変なことですよ。いきなり完璧を目指さないで、小さなステップを刻んだこと、グループリーダーの統率力があつたことが、徐々に正しい行動履歴の書き方の定着に寄与したと思います。

今までしたことのない設備情報の整理を行う業務が大変でした。必要な情報とわかっていても、生産のトラブルが発生すると十分な時間がとれず、結局、規定よりも3ヶ月長くこの時期を過ごすことになりました。



製造担当者

保全ラボから一言

現場の生産が安定していない中での新しい業務導入は難しいですが、設備保全の業務が徹底されると、御社の工場はもっと生産の安定性が高まると思います。運用フェーズまで、あと一歩です！頑張りましょう。

設備保全を行った方が良いことはわかっていましたが、これまでは大きな問題がなかったため、取り組めていませんでした。セツカンは行うべき保全活動の内容が明確でわかりやすく、現場で取り組めるレベルだったので安心しました。定期レポートでは、自社の工場の設備の状況が定量的にわかるようになりました。振り返ってみると、今までは経営方針と現場の状況がリンクしていない中で経営判断、資源配分をしていました。今は、全体の方針や予算編成が合理的に判断できるようになったことを実感しています。



経営者

保全ラボから一言

ありがとうございます。製造現場と経営の両方に「セツカン」の効果効能を感じていただけたこと、嬉しく思います。御社の工場は製造の技能レベルが高く、責任感のある方が多い現場でした。導入初期は、製造の業務のために最適化された作業標準に保全業務を追加することに苦労されたようですが、設備保全の活動の結果により突発的な設備停止の頻度が減るなどの効果が現場の動機づけに繋がりました。現場が安定することで、中長期の経営戦略が達成されやすくなると思います。引き続き、「セツカン」をご活用ください。

セツカンの活用事例B社

I 現状把握フェーズ

II 情報整理フェーズ

III 運用フェーズ

1ヶ月

2ヶ月

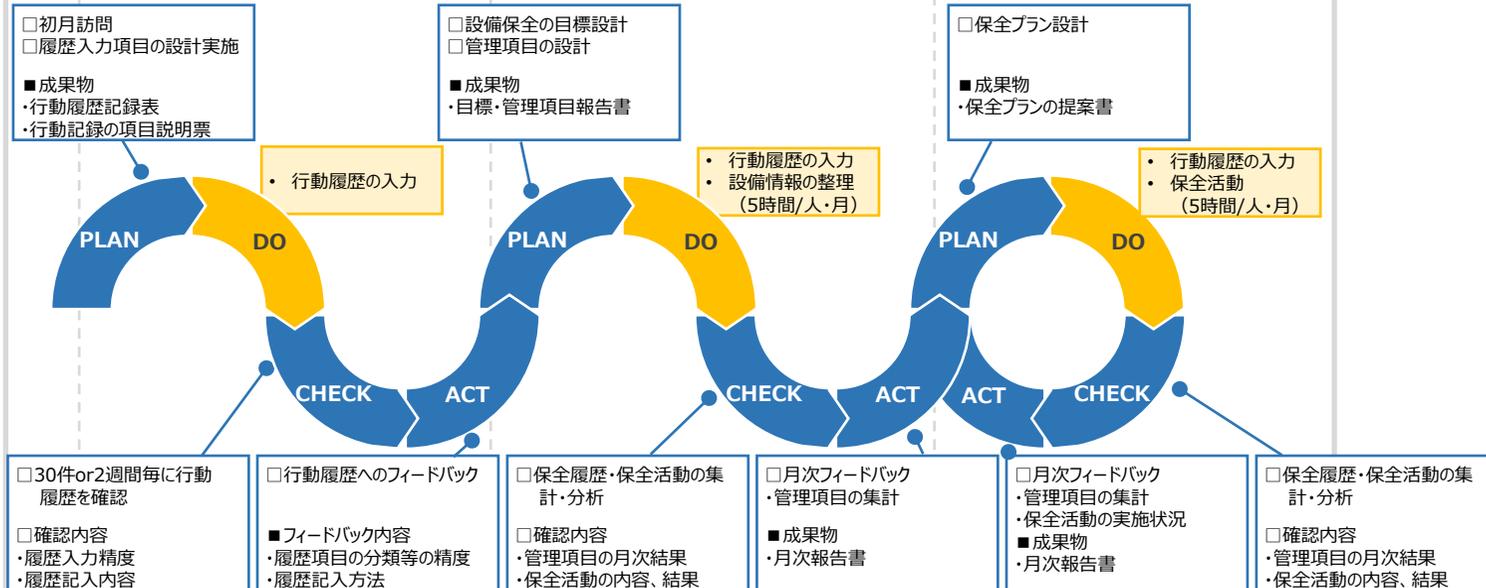
7ヶ月

8ヶ月

13ヶ月

14ヶ月

スケジュールイメージ



活動内容のイメージ

B社の工場の基本情報

従業員数：50人

保全体制：
製造部員が設備保全業務を兼任している



ニーズ

- 設備保全による経営リスクの削減
- 生産量、製品品質の安定
- 主要設備の故障リスクの削減
- 故障や工程停止時間の削減

最初は、業務が増えると考えており、設備保全を導入したくないと考えていました。ですが、保全ラボが設備保全のための項目を、普段から現場で使用している申し送り日誌に追加する形で作成してくれたので、記録業務の増加による負荷をそれほど感じることはありませんでした。



製造担当者

保全ラボから一言

行動履歴の記入は慣れるまで大変かもしれませんが、現場で起こっていることを正しく記録することは、より現場環境の実現や経営判断に役立ちます。ぜひ、今後も記録の継続をお願いします。

今までは、原価管理項目を「材料費」「労務費」「その他経費」でしか管理できていませんでした。セツカンを導入すると、今までとは違う視点で管理項目をモニタリングしてくれるため、業務負荷は増えずに、現場の課題や改善ポイントの抽出ができるようになりました。



管理職

保全ラボから一言

設備保全の業務を適正に実施していると、意味のある定量的な数値が明確になります。これにより、製造、品質、安全、経営など、さまざまな業務と有機的に結びつきます。この効果を少しでも体感していただけるようになって嬉しいです。

生産工程で、設備要因のロスが多いことに気づくことができました。

セツカンを導入して1年後には、改善のアクションを取ることができ、生産量や製品品質を安定させることができました。

また専門的な知見がなくても、工場に適した保全のアクションプランを提案してくれるため、とても助かりました。



経営者

保全ラボから一言

「セツカン」をご利用いただき、ありがとうございます。「セツカン」は、製造現場に生産活動に専念していただくためのツールです。引き続き、「セツカン」を続けていただくことで、より付加価値の高い活動が行えるようになることが期待できます。保全ラボでは、現場のIT化、工場全体のDX化などにも対応いたしますので、お気軽にご相談ください。

保全ラボは、みんなの保全パーソンになる



保全ラボ が解決したい3つの課題



地域・地球環境

- 環境への配慮不足
- 汚染物質の漏洩や産業廃棄物の排出



工場

- 低い保全水準による機会損失の発生
- IT・DX化の遅れ



働き手

- 時間外労働
- 設備トラブルによる呼び出し対応



メッセージ

私たちは、工場の製造部門が生産活動に専念できる環境を作ることを目指しています。
そのための手段として、多くの中小工場で適正に実施されていない設備維持管理の水準を高めることが有効であると考えています
設備保全は工場資産の有効活用であり、利益創出に貢献するだけでなく環境負荷低減にも繋がります。

■ 会社概要

会社名	株式会社保全ラボ		
事業内容	計画保全の企画・計画設計、工場の収益性改善の支援		
所在地	東京都新宿区住吉町2-18 ウイン四ツ谷410		
設立	2022年1月	資本金	202万円